昆明方言における各層間の意識差とその原因

吉　田　　仁

0．はじめに

筆者は2004年に『言語95・11別冊　変容する日本の方言』所収の言語意識調査票を用い，雲南省の昆明方言の言語意識調査をネイティブ90名とノン・ネイティブ45名に対して行なった。ネイティブの内訳は，25歳未満の大学生を主とする青年層，25歳以上50歳未満の活躍層，50歳以上の高年層である。調査の結果，昆明の人や土地柄と昆明方言に対してネイティブとノン・ネイティブの間では明確な意識差が存在し，さらにネイティブ内での年齢差，両親の出身地によっても微妙な意識差が存在することが明らかになった。本稿[1]では調査の結果を基に，上記の意識差の原因と昆明方言の未来像を探るものである。

1．昆明及び昆明方言の概要

昆明市は雲南省の中部に位置する雲南省の省都であり，政治，経済，文化の中心地である。四季を通じて温暖なため「春城」とも呼ばれ，中国各地からの観光客が多いことでも有名である。近年では東南アジアへの玄関口として急速な発展を遂げている。1999年には昆明世界園芸博覧会が開催され，これを契機にさらに観光客が増加している。現在，昆明市の中心部には盤竜区，五華区，官渡区，西山区の４つの直轄区があり，本調査のインフォーマントも大部分がこの４つの区に居住する者である。昆明方言は官話方言（広義の北方方言）の下位分類である西南官話の昆貴片に属す。官話方言は「ハルピンから昆明まで，直線距離で三千キロあまりあるが，両地の人の会話はそれほど困難ではない」[2]と言われ，ノン・ネイティブが昆明方言を耳にしても大意は把握できる。昆明方言は音声面で鼻音韻尾 -n，-ŋ が鼻母音化し，“班”と“幇”をともに pã˥，“金”と“京”をともに tɕĩ˥ と発音し，y 介音が存在しないため“遠”と“眼”をともに iẽ˩˧ と発音する等の特徴がある。統語面では「你看不看电影？」を「你格看电影？」（“格”は口偏に「格」）のように，反復疑問文を「格＋ VP」の型式で表現する等の特徴がある。

２．昆明の外来人口

本調査のインフォーマントは，昆明で生まれ育ったネイティブ90名と昆明市以外で生まれ育ったノン・ネイティブ45名からなる。しかし，両親がすべて昆明生まれの昆明育ちというネイティブは全体の54％にとどまった。張映庚1997[(3)]によると「昆明はここ60年来人口が急増し，1939年の38万8500人から1994年には162万5300人まで３倍以上に増加した。人口が急増した主な原因は外地からの大量流入にある。外来人口は主に抗日戦争勃発後，昆明に逃れた北方と江南の難民である。1949年以後は，雲南に進駐した中国人民解放軍の大量の将校・兵士や軍に従い南下した幹部，辺境支援人員，雲南省内のその他の地方からの転入者である。これらの人々は急速に人口比率の上でかなりの割合を占めるようになった」とある。外来人口の多い昆明では，外地から来た両親の昆明の土地柄及び昆明方言に対する意識が，微妙に子供に影響を与えたことであろう。しかし，これもまた全体としての昆明人の偽らざる姿である。

３．インフォーマントの内部構成

ネイティブの内訳は，両親ともに昆明で生まれ育った者49名（以下“純ネイティブ”と略す），両親双方あるいはどちらか一方が昆明市以外の雲南省内からの移住者17名（以下“省内ネイティブ”と略す），両親双方あるいはどちらか一方が他の省からの移住者24名（以下“省外ネイティブ”と略す）である。年齢構成は25歳以下の大学生を中心とする青年層48名，26歳以上50歳未満の活躍層29名，50歳以上の高年層13名となった。ノン・ネイティブは合計45名，内訳は「省内出身」22名（以下“省内ノン･ネイティブ”と略す），「省外出身」23名（以下“省外ノン･ネイティブ”と略す）である。省外ノン・ネイティブの大多数は昆明市内に通う大学生である。各層の計算方法は層内での割合をパーセンテージにし，複数の層を含むネイティブ，ノン・ネイティブなどの大きな層については，各層の全体数を分母として計算した。具体的には，ネイティブ内の純ネイティブ，省内ネイティブ，省外ネイティブの比率は，調査時に配布した意識調査票の人数のまま計算した。両親の出身地を明記した昆明市の人口データなどが管見では存在しなかったためである。

４．関連する先行研究と本稿の意義

本稿は，意識調査票を使用してインフォーマントの昆明方言に対する意識を論考したもので，2004年の調査時からすでに14年が経過した。この間に本稿と関連する内容で発表されたものに，宮本2009をはじめとする一連の中国国内の方言を６つの評価語を用いて言語評価を行なった論考

がある。さらに，端・張・董・周2016，左・呂2016などに代表される一定地域におけるインフォーマントの方言と共通語[4]の使用状況，及びそれに伴う方言意識と今後の方言の行方を分析した論考がある。本稿において前者に関連する内容は，**5．地域の好感度**から**8．昆明方言に対するイメージ**に相当し，後者は**9．昆明方言の未来**に相当する。地域とその土地の方言に対する好感度及びイメージは，長年に渡って蓄積された認識があり，一朝一夕に変わるものではないため，調査時から14年が経過した現在でも有効であると思われる。一方，**9．昆明方言の未来**については，すでに14年が経過しているため単純に「未来」とは言えないが，その当時の昆明方言における各層の認識が現在に至るまでいかに変容していったか，近年のメディアに発表された記事などを通じて確認したい。そうすることによって14年間の方言とそれに対する意識の変化を補いたい。

5．地域の好感度

まず初めに，地域の好感度が各層でいかに捉えられているかを見ていこう。地域の好感度は，その土地に暮らす人々が使用する言語と密接に関係し，好感度の高低によってその土地の言語の評価も変わる。下記の**図1**から**図3**は，「あなたは昆明が好きか」という昆明の好感度を各層に尋ねた結果である。**図1**は，ネイティブと省内ノン・ネイティブ，省外ノン・ネイティブの比較，**図2**は，ネイティブの青年層，活躍層，高年層の比較，**図3**は，ネイティブの親の出身地別による純ネイティブ，省内ネイティブ，省外ネイティブの比較である。

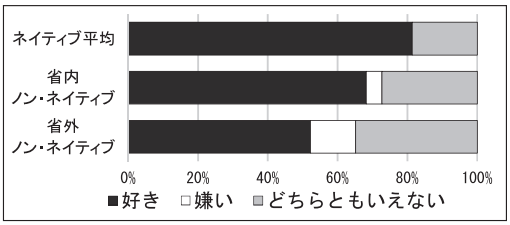

図1　ネイティブとノン・ネイティブの好感度

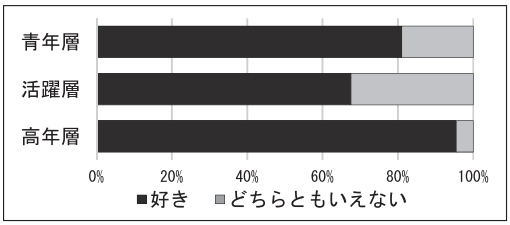

図2　ネイティブの世代別の好感度

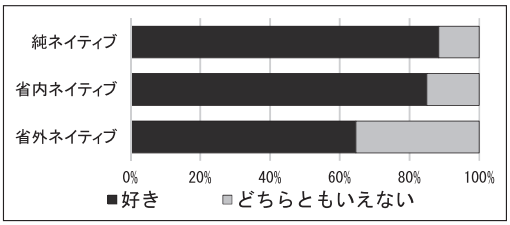

図3　ネイティブの親の出身地別による好感度

図１では，ネイティブ平均で「好き」と答えた者が81.4％と高い割合となった。「嫌い」と回答した者は１名もいない。一方，ノン・ネイティブで「好き」と回答した者は，省内ノン・ネイティブで68.2％，省外ノン・ネイティブで52.2％といずれも過半数を超えている。しかし，省内ノン・ネイティブでは27.3％が「どちらともいえない」と回答し，省外ノン・ネイティブでは34.8％が「どちらともいえない」，13.0％が「嫌い」と回答している。他地域から見た華やかな観光地としての昆明と，実際に住んでみた昆明との隔たりがこの数字に現れている。

図２のネイティブの世代別では，青年層で81.0％，活躍層で67.6％，高年層で95.6％が昆明を「好き」と回答した。高年層で高い割合を示したのは，居住年数が長くなるほど地域に対する愛着度が増すためだと考えられる。活躍層が若干低いのは，活動範囲が広いため他の地域との比較が容易なためであろう。

図３のネイティブの親の出身地別では，「好き」と回答した純ネイティブと省内ネイティブがともに80％を超えているのに対し，省外ネイティブは64.6％にとどまった。この省外ネイティブは，他の調査項目でも純ネイティブと省内ネイティブに比べ顕著な違いが見られ，ネイティブ内で一種独特な「内なる他者」としての振る舞いを見せることになる。

６．昆明の地域イメージ

それでは，昆明に住んでいる人や土地柄について，ネイティブとノン・ネイティブはいかなるイメージを抱いているのであろうか。昆明の地域イメージを20の評価語を用いて調査した。プラスイメージの評価語は，「明るい」，「開放的」，「おしゃべり」，「知的」，「都会的」，「素朴」，「活動的」，「人情味がある」，「はなやか」，「ねばり強い」，「のんびりしている」，「純粋」の計12，マイナスイメージの評価語は，「田舎くさい」，「暗い」，「強情」，「せわしない」，「重苦しい」，「閉鎖的」，「無口」，「単純」の計８つである。これら20の評価語について「とても思う」，「やや思う」，「そうは思わない」，「何とも思わない」の中で，「とても思う」と「やや思う」という肯定的な回答を合計し，**表１**と**表２**（ともに値は％）にまとめた。**表１**は，ネイティブの平均とネイティブの世代別の地域イメージ，**表２**は，ネイティブの平均と省内ノン・ネイティブ，省外ノン・ネイティブの地域イメージである。

６－１　ネイティブの昆明に対する地域イメージ

ネイティブ平均で60％（55％以上を四捨五入，以下同じ）を超える評価語（太字部分）は，順に「素朴」→「人情味がある」→「純粋」→「のんびりしている」→「単純」→「おしゃべり」→「開放的」→「活動的」→「明るい」→「知的」である。「知的」を除き，いかにも南国的で陽

表１　ネイティブの世代別の昆明に対する地域イメージ

ネイティブ							
ネイティブ平均		青年層		活躍層		高年層	
素朴	85.1%	のんびりしている	87.8%	素朴	96.8%	人情味がある	100.0%
人情味がある	82.0%	素朴	85.9%	人情味がある	84.8%	純粋	100.0%
純粋	79.7%	おしゃべり	74.3%	純粋	85.4%	重苦しい	91.1%
のんびりしている	76.2%	開放的	69.0%	のんびりしている	82.2%	素朴	72.7%
単純	71.4%	単純	65.8%	単純	75.8%	単純	72.7%
おしゃべり	65.6%	明るい	63.9%	明るい	65.6%	知的	72.7%
開放的	63.1%	人情味がある	61.3%	活動的	65.6%	強情	68.2%
活動的	62.3%	活動的	57.5%	開放的	65.5%	せわしない	68.2%
明るい	59.2%	純粋	53.8%	おしゃべり	58.5%	おしゃべり	64.1%
知的	58.3%	都会的	51.8%	都会的	58.5%	活動的	63.8%
都会的	53.4%	知的	46.8%	知的	55.4%	のんびりしている	58.5%
強情	53.3%	強情	42.2%	強情	49.6%	開放的	54.9%
重苦しい	45.6%	田舎くさい	42.0%	ねばり強い	42.0%	閉鎖的	54.9%
ねばり強い	42.8%	ねばり強い	36.3%	閉鎖的	41.4%	ねばり強い	50.1%
閉鎖的	38.3%	はなやか	24.0%	せわしない	31.2%	都会的	49.8%
田舎くさい	37.8%	重苦しい	23.8%	はなやか	28.0%	明るい	48.1%
せわしない	37.1%	閉鎖的	18.4%	田舎くさい	26.1%	田舎くさい	45.4%
はなやか	30.9%	無口	14.7%	無口	24.8%	はなやか	40.6%
無口	14.7%	せわしない	11.8%	暗い	21.6%	暗い	8.9%
暗い	14.1%	暗い	11.7%	重苦しい	21.6%	無口	4.7%

気で楽天的なゆったりとした情緒にあふれている。「単純」は，日本語ではマイナスイメージとして扱われているが，中国語ではプラスとマイナスの両義的な面があり（中国語訳では「簡単」），「物事をシンプルにとらえる」，「裏表がない」などの意味でインフォーマントは理解したようだ。

世代別に評価語を見ると，青年層ではネイティブ平均で60％を超えた「純粋」と「知的」が60％未満である。

活躍層では，ネイティブ平均で60％未満の「都会的」が60％を超えている。行動範囲の広い活躍層にとって「都会的」が高くなった理由は，他地域との比較の機会が多いためであろう。

一方，高年層でのみ60％を超え，他の層には見られない評価語に「重苦しい」，「強情」，「せわしない」の３つがあり，すべてマイナスイメージの評価語である。さらに，ネイティブ平均で60％を超えた「開放的」と「明るい」は60％を下回っている。「せわしない」は，いわゆる「改革開放後」に商品経済が急速に発達し，そのペースに順応できないというこの層独自の印象として理解できるが，「重苦しい」は，昆明及び雲南ならではの事情がある。一般的に他省の人間の昆明を含む雲南省全体のイメージは，「辺境」，「遅れている」，「野蛮」，「少数民族が多い」などであり[(5)]，高年層ではこれらのイメージの影響を長年受けているか，過去においてもこのような事実があったのであろう。「開放的」，「明るい」というプラスイメージの評価語が，高年層で相対的に低くなったのも同様の理由と考えられる。

６－２　ノン・ネイティブの昆明に対する地域イメージ

ノン･ネイティブの昆明の地域イメージはどうであろうか。ネイティブの平均と省内外のノン・ネイティブ全体で60％を超える共通の評価語は,「おしゃべり」,「開放的」,「活動的」の３つのみである。

省内ノン・ネイティブでは，ネイティブ平均で上位に位置する評価語の「のんびりしている」,「素朴」,「人情味がある」,「単純」,「純粋」がいずれも60％を下回っている。省内ノン･ネイティブ自身が雲南省の地方部出身のため，これらの特徴をネイティブよりも多く備えていると認識しているためであろう。また,「都会的」と「せわしない」がそれぞれ上位に位置しているのも，雲南省の地方部出身者の昆明に対する意識の表れと思われる。ネイティブ平均と省内ノン・ネイティブにのみ上位に位置する評価語は「明るい」である。雲南人全体の昆明に対する一定した認識であろう。

一方，省外ノン･ネイティブでは,「のんびりしている」,「素朴」,「人情味がある」がネイティブ平均と同様に60％を超えている。省内ノン・ネイティブが雲南省の地方部から昆明をイメージするのとは異なり，省外ノン・ネイティブの方がより客観的に昆明の地域イメージを捉えていることがわかる。

表２　ノン・ネイティブの昆明に対する地域イメージ

ネイティブ平均		ノン・ネイティブ			
		省内ノン・ネイティブ		省外ノン・ネイティブ	
素朴	85.1%	開放的	72.7%	のんびりしている	79.2%
人情味がある	82.0%	おしゃべり	72.7%	素朴	78.3%
純粋	79.7%	活動的	72.7%	開放的	60.9%
のんびりしている	76.2%	明るい	59.1%	おしゃべり	60.9%
単純	71.4%	都会的	59.1%	活動的	60.9%
おしゃべり	65.6%	のんびりしている	54.5%	人情味がある	56.5%
開放的	63.1%	せわしない	54.5%	明るい	52.2%
活動的	62.3%	知的	45.5%	閉鎖的	47.8%
明るい	59.2%	素朴	45.5%	純粋	39.1%
知的	58.3%	人情味がある	45.5%	田舎くさい	39.1%
都会的	53.4%	はなやか	45.5%	知的	34.8%
強情	53.3%	重苦しい	40.9%	単純	34.8%
重苦しい	45.6%	単純	40.9%	都会的	30.4%
ねばり強い	42.8%	純粋	36.4%	ねばり強い	30.4%
閉鎖的	38.3%	閉鎖的	36.4%	暗い	30.4%
田舎くさい	37.8%	強情	36.4%	強情	30.4%
せわしない	37.1%	ねばり強い	27.3%	はなやか	21.7%
はなやか	30.9%	田舎くさい	27.3%	無口	17.4%
無口	14.7%	無口	22.7%	せわしない	13.0%
暗い	14.1%	暗い	9.1%	重苦しい	13.0%

7．昆明方言に対する好感度

それでは，昆明方言に対する好感度はどうであろうか。以下の**図4**から**図6**は，昆明方言に対する好感度を各層ごとに尋ねた結果である。**図4**は，ネイティブの平均と省内ノン・ネイティブ，省外ノン・ネイティブの比較，**図5**は，ネイティブ内の青年層，活躍層，高年層の比較，**図6**は，ネイティブ内の純ネイティブ，省内ネイティブ，省外ネイティブの比較，**図7**は，純ネイティブ，省内ネイティブ，省外ネイティブの共通語に対する好感度を尋ねた結果である。

図4のネイティブ平均と省内ノン・ネイティブ，省外ノン・ネイティブの比較を見ると，昆明方言に対する好感度は地域イメージと異なり相対的に低いことがわかる。ネイティブ平均で「好き」と回答した者は57.4％と過半数を超えているが，「嫌い」が9.9％，「どちらともいえない」が32.7％である。

省内ノン・ネイティブは「好き」13.6％，「嫌い」27.3％，「どちらともいえない」59.1％と，こちらも昆明方言に関してはあまり魅力を感じていないようだ。彼らは自らと同じ雲南方言に属す昆明方言に対して，いわば大同小異の印象を持ち，とりたてて特別な存在とみなしていないのかもしれない。

省外ノン・ネイティブは「好き」と「嫌い」がともに39.1％，「どちらともいえない」が21.8％と，省内ノン・ネイティブに比べ肯定的な評価が多少増えているが，こちらもあまり特別な印象がないようだ。上海を中心とする呉語，広東省を中心とする粤語など，官話方言と相互に理解が不可能な独自性を持つ南方の諸方言と異なり，官話方言に属す昆明方言にはあまり独自性を見出せないことが原因であろうか。

図5のネイティブの世代別の回答を見ると，青年層で48.1％，活躍層で51.6％とほぼ同様の数値で「好き」と回答した。「どちらともいえない」が青年層と活躍層でそれぞれ37.7％と37.6％とほぼ同数で，自身の方言にはあまり好感を抱いていない。一方，高年層では72.7％が「好き」と回答した。高年層で数値が高いのは地域に対する好感度と同様に，使用する時間に比例して愛着を感じていると理解できる。

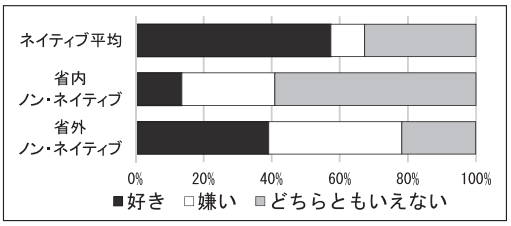

図4　ネイティブとノン・ネイティブの好感度

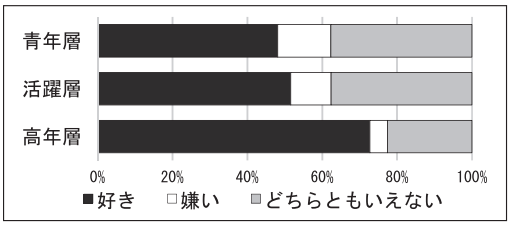

図5　ネイティブの世代別の好感度

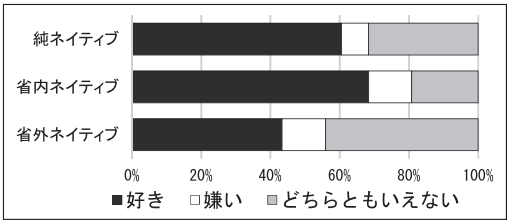

図６　ネイティブの親の出身地別による好感度

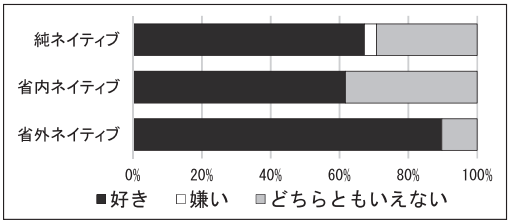

図７　共通語に対するネイティブの親の出身地別による好感度

図６のネイティブの親の出身地別による回答を見ると，純ネイティブの60.6％，省内ネイティブの68.8％が昆明方言を「好き」と回答しているのに対し，省外ネイティブで「好き」と回答した者は43.4％と過半数に満たない。さらに，44.1％が「どちらともいえない」と答え，「嫌い」の12.6％と合わせると56.7％に達する。省外ネイティブは他の層に比べ，昆明方言にそれほど好感を抱いていないことがわかる。

それでは，共通語に対する純ネイティブ，省内ネイティブ，省外ネイティブの意識はどうか。**図７**を見ると，各層いずれも共通語に対する好感度は高く，純ネイティブで67.3％，省内ネイティブで61.7％と６割を超えている。一方，省外ネイティブの共通語志向はさらに強く，実に89.7％と９割に近い。**図６**の昆明方言を「好き」と回答した割合が43.4％と過半数に満たなかったことを考慮すると，この層の自己の方言に対する独特な意識がうかがえる。

８．昆明方言に対するイメージ

それでは，昆明方言に対して，ネイティブとノン・ネイティブはいかなるイメージを抱いているのであろうか。昆明方言に対するイメージの評価語は合計18あり，プラスイメージの評価語は，「良いことば」，「丁寧」，「きれい」，「表現が豊か」，「親しみやすい」，「素朴」，「味がある」，「おだやか」の計８つ，マイナスイメージの評価語は，「早口」，「荒っぽい」，「聞き取りにくい」，「きつい」，「ねばっこい」，「まのびしている」，「汚い」，「やぼったい」，「悪いことば」，「感情的」の計10である。ネイティブ用には，ノン・ネイティブにはない「使いやすい」という評価語が加わっている。これらの評価語を**６．昆明の地域イメージ**と同様に，「とても思う」と「やや思う」という肯定的な回答を合計し，**表３**と**表４**にまとめた。**表３**は，ネイティブの平均とネイティブの世代別の昆明方言に対するイメージ，**表４**は，ネイティブの平均と省内ノン・ネイティブ，省外ノン・ネイティブの２つの層の昆明方言に対するイメージである。

8－1　ネイティブの昆明方言に対するイメージ

ネイティブ平均で60％（55％以上を四捨五入，以下同じ）を超える評価語（太字部分）は，順に「使いやすい」→「素朴」→「おだやか」→「親しみやすい」→「丁寧」→「早口」→「良いことば」→「表現が豊か」→「味がある」→「きれい」となった。マイナスイメージの評価語「早口」を除き，プラスイメージの評価語にすべて肯定的な回答を与えた。ネイティブは，自身の方言そのものには好感をそれほど持てていないが，方言の個々の具体的なイメージには肯定的評価が多いことがわかる。

青年層で60％を超えた評価語は，いずれもネイティブ平均にも共通するものだが，「味がある」，「きれい」，「丁寧」，「良いことば」が60％を下回っている。この世代は80年代生まれのいわゆる「80後」に属し，共通語教育が強力に推進されていた時期に学齢期を迎えている。上記の４つの評価語が60％を割っているのも，これに起因する可能性がある。ただし，「使いやすい」，「表現が豊か」，「親しみやすい」などがいずれも上位に位置していることから，青年層は私生活においては，依然として方言優位社会に身を置いていると言えよう。

活躍層では，「おだやか」，「素朴」，「使いやすい」，「丁寧」，「親しみやすい」，「良いことば」，「表現が豊か」が60％を超えている。この層は昆明の地域イメージに対する傾向と同様に，他地域の方言と比較して，これらの評価語を昆明方言独特の特徴として捉えたようだ。「早口」，「味があ

表３　ネイティブの世代別の昆明方言に対するイメージ

ネイティブ							
ネイティブ平均		青年層		活躍層		高年層	
使いやすい	**86.0%**	**素朴**	**87.8%**	**おだやか**	**86.0%**	**親しみやすい**	**100.0%**
素朴	**81.8%**	**使いやすい**	**82.9%**	**素朴**	**80.2%**	**使いやすい**	**100.0%**
おだやか	**81.5%**	**早口**	**68.7%**	**使いやすい**	**75.2%**	**良いことば**	**95.6%**
親しみやすい	**78.0%**	**表現が豊か**	**66.6%**	**丁寧**	**69.4%**	**丁寧**	**95.6%**
丁寧	**69.7%**	**親しみやすい**	**64.7%**	**親しみやすい**	**69.4%**	**おだやか**	**95.3%**
早口	**67.2%**	**おだやか**	**63.4%**	**良いことば**	**58.6%**	**素朴**	**77.4%**
良いことば	**65.8%**	**味がある**	**54.7%**	**表現が豊か**	**56.5%**	**味がある**	**77.4%**
表現が豊か	**65.3%**	**きれい**	**47.6%**	**早口**	**55.4%**	**早口**	**77.4%**
味がある	**61.2%**	**丁寧**	**44.3%**	**味がある**	**51.6%**	**きれい**	**73.0%**
きれい	**56.1%**	やぼったい	43.9%	**きれい**	**47.8%**	**表現が豊か**	**72.7%**
荒っぽい	30.7%	**良いことば**	**43.3%**	やぼったい	29.3%	きつい	54.4%
やぼったい	30.5%	荒っぽい	37.4%	荒っぽい	27.4%	悪いことば	50.1%
きつい	28.5%	汚い	30.6%	感情的	23.0%	ねばっこい	40.9%
感情的	27.3%	聞き取りにくい	24.1%	ねばっこい	17.2%	まのびしている	40.9%
まのびしている	26.3%	まのびしている	20.8%	まのびしている	17.2%	感情的	40.9%
悪いことば	24.4%	きつい	20.3%	聞き取りにくい	14.6%	荒っぽい	27.2%
ねばっこい	23.6%	感情的	17.9%	悪いことば	14.6%	汚い	22.8%
汚い	22.5%	ねばっこい	12.8%	汚い	14.0%	やぼったい	18.3%
聞き取りにくい	14.5%	悪いことば	8.5%	きつい	10.8%	聞き取りにくい	4.7%

る」,「きれい」が60％を下回っているのも同様の理由と言えよう。

高年層では,「親しみやすい」,「使いやすい」,「良いことば」,「丁寧」がいずれも90％を超え,「親しみやすい」,「使いやすい」は100％である。長年使用してきた生活言語としての昆明方言に対する，愛着の表れであり，使用する年数に応じて肯定的に捉えた結果と判断できる。しかし，マイナスイメージの評価語「きつい」,「悪いことば」が高年層でのみ50％を超えている。特に「悪いことば」は，共通語が普及している現代の中国で，この層の方言に対する否定的感情の表れであろう。これらマイナスイメージの評価語と相反する「良いことば」が95.6％であることから，この層の自身の方言に対する複雑な心理が読み取れる。

８－２　ノン・ネイティブの昆明方言に対するイメージ

ノン・ネイティブの昆明方言に対するイメージはどうであろうか。ネイティブの平均と省内外のノン･ネイティブ全体で共通する60％以上の評価語は,「早口」,「表現が豊か」,「味がある」の３つのみである。他の評価語はすべて60％に達していない。

省内ノン・ネイティブでは，上記の「表現が豊か」,「味がある」,「早口」の３つの評価語のみが60％を上回った。それ以外はいずれの評価語を問わず全て60％を下回っている。「聞き取りにくい」がわずか22.7％と低いことからもわかるように，省内ノン・ネイティブは，７．昆明方言に

表４　ノン・ネイティブの昆明方言に対するイメージ

ネイティブ平均		ノン・ネイティブ			
		省内ノン・ネイティブ		省外ノン・ネイティブ	
素朴	81.8%	表現が豊か	68.2%	早口	69.6%
おだやか	81.5%	味がある	63.6%	味がある	60.9%
親しみやすい	78.0%	早口	59.1%	荒っぽい	60.9%
丁寧	69.7%	素朴	50.0%	表現が豊か	56.5%
早口	67.2%	おだやか	50.0%	聞き取りにくい	56.5%
良いことば	65.8%	親しみやすい	40.9%	素朴	52.2%
表現が豊か	65.3%	きれい	40.9%	ねばっこい	52.2%
味がある	61.2%	汚い	40.9%	おだやか	43.5%
きれい	56.1%	丁寧	36.4%	親しみやすい	43.5%
荒っぽい	30.7%	荒っぽい	36.4%	きれい	39.1%
やぼったい	30.5%	悪いことば	36.4%	良いことば	34.8%
きつい	28.5%	良いことば	31.8%	やぼったい	34.8%
感情的	27.3%	きつい	31.8%	まのびしている	30.4%
まのびしている	26.3%	ねばっこい	27.3%	きつい	30.4%
悪いことば	24.4%	聞き取りにくい	22.7%	丁寧	26.1%
ねばっこい	23.6%	やぼったい	18.2%	悪いことば	21.7%
汚い	22.5%	感情的	18.2%	汚い	17.4%
聞き取りにくい	14.5%	まのびしている	13.6%	感情的	17.4%

対する好感度でも述べたように，ネイティブと同様に雲南方言という同一の方言圏に属しているため，昆明方言について際立ったイメージが湧かなかったようだ。その中で「おだやか」が省内ノン・ネイティブで50％に達し，省外ノン・ネイティブでは50％に達していないことから，雲南方言全体の中で，昆明方言に対するある程度一致したイメージなのであろう。

一方，省外ノン･ネイティブで60％を超えた評価語は，「早口」，「味がある」，「荒っぽい」，「表現が豊か」，「聞き取りにくい」の計５つである。マイナスイメージの評価語「早口」，「荒っぽい」，「聞き取りにくい」が60％を越えている。特に「聞き取りにくい」が56.5％と過半数を占めていることからもわかるように，昆明方言が共通語の母体となる官話方言に属しているとはいえ，省外ノン・ネイティブにとっては，細かな内容までは聞き取ることができないのであろう。また，この層の大部分は省外出身の大学生で，昆明で生活して数年しか経っていないため，このような結果になったと思われる。さらに，「ねばっこい」という評価語が，省外ノン・ネイティブのみで52.2％と過半数を超えている。これは省外からの視点でとらえた昆明方言の大きな特徴なのであろう。これが音声面によるものなのか，それ以外によるものか不明だが興味深い結果である。

９．昆明方言の未来

次に，昆明方言の未来を考えていきたい。**４．関連する先行研究と本稿の意義**でも述べたように，調査時からすでに14年が経過しているため，以下に述べる状況はあくまでも2004年時点でのものである。本章では，ネイティブの親の出身地による純ネイティブ，省内ネイティブ，省外ネイティブの各層の昆明及び昆明方言に対する意識を通じて，昆明方言の未来について考える。**５．地域の好感度**と**図６　ネイティブの親の出身地別による好感度**でも触れたように，この３つの層の中で省外ネイティブは，昆明及び昆明方言に対する意識が，他の２つの層とは明らかに異なっている。**２．昆明の外来人口**で述べたように，昆明は省外からの移住者の多い都市であり，移住地に対する意識が昆明で生まれた子供の世代にも，大きな影響を与えることが十分に考えられ，今後の昆明方言の動向を左右する可能性があると考えたためである。さらに，ネイティブ内の世代別の昆明方言に対する意識についても検討する。特に青年層の意識が，昆明方言の行く末を占う鍵と考えられるためである。最後に，**９－３　近年の昆明方言の状況**で，近年の方言意識の変化をインターネットに掲載された記事を通じて確認したい。

９－１　省外ネイティブの昆明と昆明方言に対する意識

以下の**表５**と**表６**は，昆明に対する地域イメージと昆明方言に対するイメージの中で，省外ネイティブの回答が，純ネイティブ，省内ネイティブの回答と大きく異なった評価語の抜粋である。

図８から**図12**までは，「昆明方言を後世に残しておきたいか」，「自分の子や孫にどんなことばを使ってほしいか」，「昆明方言を話す知人と昆明の道端で話をするとき」，「昆明方言を話す知人と北京の路線バスの中で話をするとき」，「自分の使っている言葉や発音に昆明方言の特徴があると思うか」という設問に対する各層の回答，**図13**は，前の設問「自分の使っている言葉や発音に昆明方言の特徴があると思うか」で「多い」または「少し」と回答した者に対して，その感想を各層に尋ねたものである。

表５　ネイティブの親の出身地別による昆明に対する地域イメージ（抜粋）

純ネイティブ		省内ネイティブ		省外ネイティブ	
開放的	69.0%	開放的	65.6%	**開放的**	**35.0%**
おしゃべり	68.2%	おしゃべり	91.7%	**おしゃべり**	**41.8%**
都会的	53.7%	都会的	66.7%	**都会的**	**43.4%**
活動的	70.2%	活動的	68.3%	**活動的**	**41.8%**
田舎くさい	21.1%	田舎くさい	29.1%	**田舎くさい**	**78.0%**
暗い	9.7%	暗い	4.2%	**暗い**	**30.1%**

省外ネイティブは他の２つの層に比べ，「開放的」，「おしゃべり」，「都会的」，「活動的」というプラスイメージの評価語に対して，いずれも肯定的な回答が少なく50％を下回っている。一方，「田舎くさい」，「暗い」というマイナスイメージの評価語には肯定的な回答が多い。特に「田舎くさい」に対する回答が，純ネイティブの21.1％，省内ネイティブの29.1％に比べ，省外ネイティブでは78.0％と際立って高いことからも昆明に対する地域イメージは，親の世代の影響をかなり受けていると言えよう。また，「暗い」が純ネイティブで9.7％，省内ネイティブで4.2％と一桁なのに対し，省外ネイティブでは30.1％と３割に上る。ここにも省外ネイティブの昆明に対する否定的意識が読み取れる。

表６　ネイティブの親の出身地別による昆明方言に対するイメージ（抜粋）

純ネイティブ		省内ネイティブ		省外ネイティブ	
良いことば	73.7%	良いことば	65.8%	**良いことば**	**49.9%**
丁寧	73.3%	丁寧	83.4%	**丁寧**	**52.9%**
きれい	61.7%	きれい	65.9%	**きれい**	**37.8%**
荒っぽい	22.5%	荒っぽい	33.3%	**荒っぽい**	**45.6%**
やぼったい	13.1%	やぼったい	29.1%	**やぼったい**	**66.9%**
悪いことば	15.3%	悪いことば	29.1%	**悪いことば**	**39.6%**

省外ネイティブは他の２つの層に比べ，「良いことば」，「丁寧」，「きれい」というプラスイメージの評価語に対し，肯定的な回答が少ない。特に「良いことば」，「きれい」という言語の価値や美しさに関する評価語に対して肯定的回答が低いことから，この層に特有の昆明方言への意識がうかがえる。さらに，「やぼったい」が純ネイティブ13.1％，省内ネイティブ29.1％とかなり低いのに対し，省外ネイティブでは実に66.9％という高い回答を得ていることからも，昆明の地域イ

メージの評価語「田舎くさい」と同様に，昆明方言に対する否定的意識の表れと理解できる。

図８と図９は，昆明方言の今後に関する設問とその回答である。

図８「昆明方言を後世に残しておきたいか」に対する選択肢は，「残しておきたい」，「なくなってほしい」，「どちらでもよい」，「わからない」，「その他」の計５つである。「その他」を選択した者はいなかった。純ネイティブの82.5％，省内ネイティブの80.8％が「残しておきたい」と回答しているが，省外ネイティブでは「残しておきたい」と回答した者は46.6％と過半数に満たず，「どちらでもよい」が41.8％にも上り，両者の回答は拮抗している。省外ネイティブは，昆明方言の未来についてそれほど関心を持っていないことがわかる。

図９「自分の子や孫にどんな言葉を使ってほしいか」に対する選択肢は，「共通語のみ」，「場合によって，共通語と昆明方言を使い分ける」，「方言のみ」，「どちらでもよい」，「わからない」，「その他」の計６つである。「方言のみ」を選択した者はいなかった。「共通語と昆明方言を使い分ける」と回答した者は，純ネイティブで66.4％，省内ネイティブで72.5％と，両層ともに共通語と昆明方言の共存を希望している。さらに，省内ネイティブに至っては「共通語のみ」は１名もいない。一方，省外ネイティブで「共通語と昆明方言を使い分ける」と回答した者は25.2％と非常に少なく，「共通語のみ」が31.7％，「どちらでもよい」が31.5％で，両者の合計は63.3％にも上る。省外ネイティブは，子孫が昆明方言を継承することに否定的であると言えよう。

図10と図11は，ともに場面に応じたコードスイッチングに関する設問とその回答である。それぞれの設問に対する選択肢は「共通語で話す」，「昆明方言独特の言葉が出ないように気をつけ

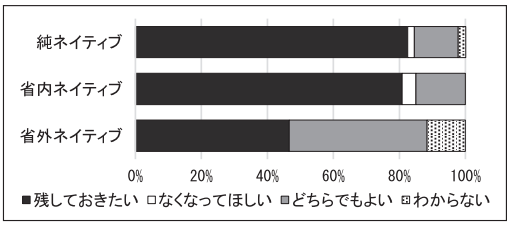

図８　昆明方言を後世に残しておきたいか

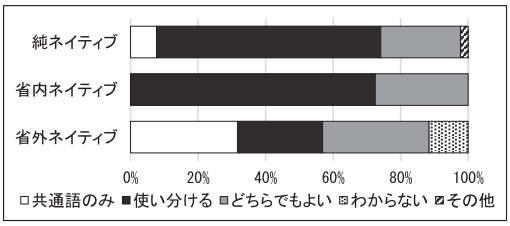

図９　自分の子や孫にどんな言葉を使ってほしいか

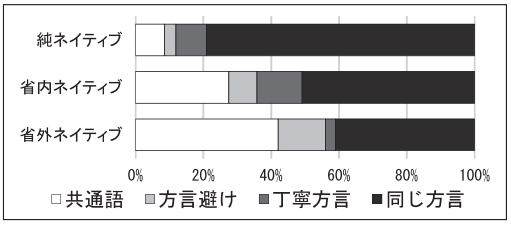

図10　昆明方言を話す知人と昆明の道端で話をするとき

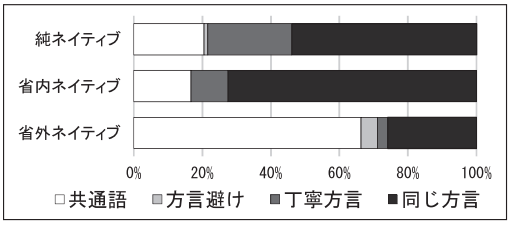

図11　昆明方言を話す知人と北京の路線バスの中でで話をするとき

る」,「家にいるときよりは多少丁寧な昆明方言で話す」,「家にいるときと同じ昆明方言で話す」,「できるだけ話さないようにする」の計５つである。「できるだけ話さないようにする」を選択した者はいなかった。

図10「昆明方言を話す知人と昆明の道端で話をするとき」では，純ネイティブの79.1％と省内ネイティブの50.9％が「家にいるときと同じ昆明方言で話す」と回答し，純ネイティブの9.0％と省内ネイティブの13.3％が「家にいるときよりは多少丁寧な昆明方言で話す」と回答している。一方，省外ネイティブでは42.1％が「共通語で話す」と回答し，13.9％が「昆明方言独特の言葉が出ないように気をつける（＝方言避け)」と回答している。一方,「家にいるときと同じ昆明方言で話す」は41.0％と過半数にも満たない。

図11「昆明方言を話す知人と北京の路線バスの中で話をするとき」では，純ネイティブの54.0％と省内ネイティブの72.5％が「家にいるときと同じ昆明方言で話す」と回答し，純ネイティブの24.5％と省内ネイティブの10.8％が「家にいるときよりは多少丁寧な昆明方言で話す」と回答している。一方，省外ネイティブは実に66.3％が「共通語で話す」と回答し,「家にいるときと同じ昆明方言で話す」は，わずか25.9％にまで減少している。

図12「自分の使っている言葉や発音に昆明方言の特徴があると思うか」では，純ネイティブの71.8％，省内ネイティブの65.8％が「多い」と回答したのに対し，省外ネイティブで「多い」と回答した者はわずか25.3％である。「少し」と回答した割合は，純ネイティブで24.7％，省内ネイティブで30.0％であるのに対し，省外ネイティブは65.7％にも上る。ただし，この数値にはいささか疑問が残る。想像を逞しくすれば,「多い」と回答することにある種の「抵抗感」があったのではないだろうか。**表６　親の出身地別による昆明方言に対するイメージ（抜粋）**でも触れたように，省外ネイティブの66.9％が昆明方言を「やぼったい」と回答しているからである。

図13は，前の設問「自分の使っている言葉や発音に昆明方言の特徴があると思うか」で,「多い」または「少し」と回答した者に対し，その感想を尋ねたものである。選択肢は,「良いことだ」,「残念だ」,「仕方ない」,「別に何とも思わない」である。「良いことだ」と「別に何とも思わない」を昆明方言に肯定的回答,「残念だ」と「仕方ない」を昆明方言に否定的回答とみなすと,

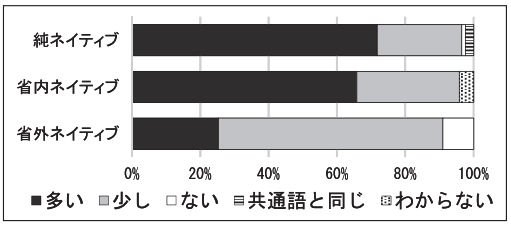

図12　自分の使っている言葉や発音に昆明方言の特徴があると思うか

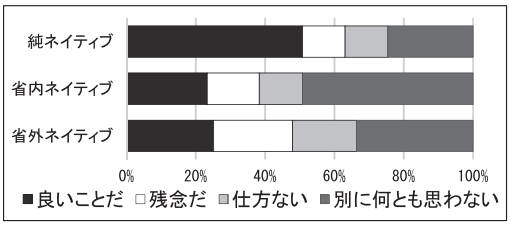

図13　前問の回答についてどう思うか

「良いことだ」または「別に何とも思わない」と回答した純ネイティブは75.4%，省内ネイティブは72.5%となり，ともに７割を超えている。一方，省外ネイティブは58.7%と過半数を超えてはいるものの他の層に比べ低い。「残念だ」または「仕方ない」と回答した純ネイティブは24.6%，省内ネイティブは27.5%であるのに対し，省外ネイティブは41.3%と約４割に上る。純ネイティブと省内ネイティブは，自身の言葉に方言的要素があることに，それほどマイナスイメージを抱いていないが，省外ネイティブの約４割は，マイナスイメージを抱いている。

以上のように，省外ネイティブは，純ネイティブと省内ネイティブに比べ，昆明方言にそれほど好感を抱いていないと判断できる。下の**表７**は，省外ネイティブ24名の親の出身地である。両親ともに省外出身者は18名，両親のどちらか一方が省外出身者は６名で，人数順に四川（重慶を含む）６名，広東５名，江西４名，貴州４名，上海３名，江蘇３名，湖南３名，河北２名，河南２名，広西２名，遼寧，北京，山西，陝西，山東，安徽がそれぞれ１名と実に多岐にわたっている。

表７　省外ネイティブの両親の出身地一覧

父	母	父	母	父	母	父	母
四川 資宗	四川 資宗	広東	雲南	雲南 昆明	貴州 貴陽	江蘇 徐州	江蘇 無錫
四川 成都	四川 成都	河南	広東	上海	上海	山西	江蘇
河南	四川 自貢	江西 南昌	江西 南昌	上海	雲南 昆明	広西 南寧	広西 南寧
重慶	安徽 安慶	江西 南昌	江西 南昌	湖南 長沙	湖南 長沙	遼寧 東豊	山東 蓬莱
広東 湛江	広東 湛江	貴州 貴陽	貴州 安順	雲南 昆明	湖南 長沙	陝西 漢陽	雲南 石屏
広東 南海	雲南 昆明	貴州	雲南 昆明	河北 南宮	河北 南宮	北京	雲南 昆明

全国各地から移住した親の下で営まれる家庭において，省外ネイティブは，両親の双方またはどちらか一方が省外出身者であるため，家庭内では親が共通語，しかも自身の母方言の影響をかなり受けた共通語を使用し，子供も共通語を使用するというような言語環境ではないだろうか。もちろん親の世代は昆明に長く住んでいるため，昆明方言の聞き取りには不自由しなくなっているであろう。しかし，家庭内でのこのような言語環境は，子供の世代の昆明に対する地域イメージにも影響を与えるであろうし，昆明方言に対する意識にも影響を与えることと思われる。なぜなら，**表５**と**表６**の結果からも明らかなように，省外ネイティブは昆明と昆明方言に対して，それほどよいイメージを抱いていないからである。

９－２　ネイティブ青年層の昆明と昆明方言に対する意識

それでは，ネイティブ青年層の昆明と昆明方言に対する意識はどうであろうか。**９－１　省外ネイティブの昆明と昆明方言に対する意識**と同様に，**図14**から**図18**までは，「昆明方言を後世に残しておきたいか」，「自分の子や孫にどんなことばを使ってほしいか」，「昆明方言を話す知人と昆明の道端で話をするとき」，「昆明方言を話す知人と北京の路線バスの中で話をするとき」，「自分の使っている言葉や発音に昆明方言の特徴があると思うか」という設問に対する各層の回答，**図19**は，前の設問「自分の使っている言葉や発音に昆明方言の特徴があると思うか」で「多い」または「少し」と回答した者に対して，その感想を各層に尋ねたものである。

図14「昆明方言を後世に残しておきたいか」では，青年層の78.6％，活躍層の61.8％，高年層の77.5％が「残しておきたい」と回答し，青年層が各層の中で最も高い。改革開放後に共通語教育が他の層に比べ強力に推進されてきたにもかかわらず，青年層で方言志向が強いことは，**５．地域の好感度**で青年層が81.0％という高い支持を表したのと同様に，郷土愛の強い反映と理解できる。ただし，**７．昆明方言に対する好感度**の**図５　ネイティブの世代別の好感度**でも明らかになったように，青年層で昆明方言を「好き」と回答した者は，48.1％とそれほど高くない。自ら使用する生活言語としての昆明方言には特別な感情はないが，消滅してしまうには忍びないといった感情がこの設問の回答に表れている。

図15「自分の子や孫にどんな言葉を使ってほしいか」では，「共通語のみ」が青年層で9.4％と最も低く，「どちらでもよい」が他の層に比べ36.3％と最も高い。この２つの回答は一見矛盾しているが，この調査の当時，青年層の多くは大学在学中で，実感として子や孫がいかに自身の生活言語を継承するかまでには考えが及ばなかったようだ。「使い分ける」が他の層に比べ45.7％と最も低いのも同様の理由であろう。

図16「昆明方言を話す知人と昆明の道端で話をするとき」では，青年層の26.7％が「共通語で話す」と回答し，「昆明方言独特の言葉が出ないように気を付ける（＝方言避け）」の17.6％を合わせると44.3％に上る。共通語教育が徹底された青年層にとって，他の世代よりも共通語を巧みに使いこなす自信の表れであろう。

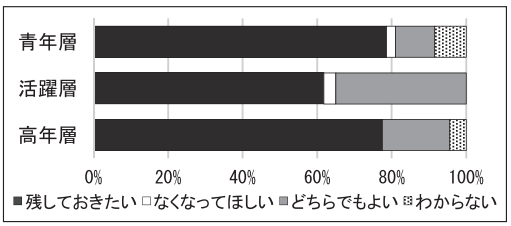

図14　昆明方言を後世に残しておきたいか

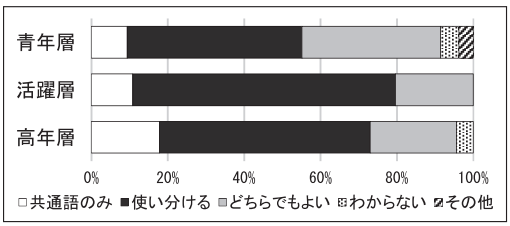

図15　自分の子や孫にどんな言葉を使ってほしいか

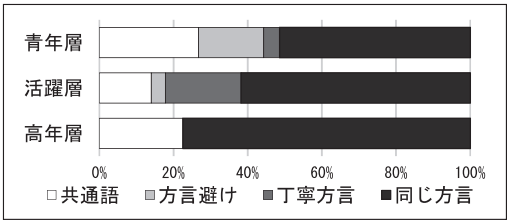

図16　昆明方言を話す知人と昆明の道端で話をするとき

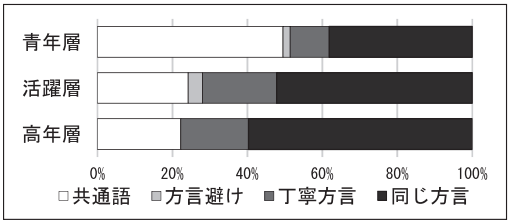

図17　昆明方言を話す知人と北京の路線バスの中ので話をするとき

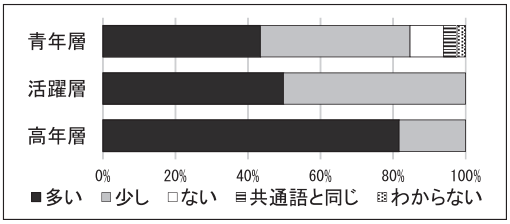

図18　自分の言葉や発音に昆明方言の特徴があると思うか

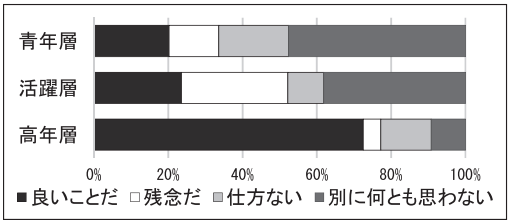

図19　前問の回答についてどう思うか

図17「昆明方言を話す知人と北京の路線バスの中で話をするとき」では，青年層の共通語志向がさらに強まり，49.5％と約半数が「共通語で話す」と回答した。ただし，「家にいるときよりは多少丁寧な昆明方言を使う（＝丁寧方言）」と回答した割合も前問より若干増えている。「多少丁寧な昆明方言を使う」ことが可能なほど，この層の方言運用能力が依然として高いという証左でもある。さらに，「家にいるときと同じ昆明方言を使う」を合わせると48.6％になり，「共通語で話す」の数値とほぼ拮抗している。

図18「自分の使っている言葉や発音に昆明方言の特徴があると思うか」では，青年層の43.4％，活躍層の49.8％，高年層の81.7％と年齢が増すにしたがって「多い」と回答し，青年層の41.3％，活躍層の50.2％，高年層の18.3％が「少し」と回答している。「多い」と「少し」を合計すると青年層は84.7％，活躍層と高年層はともに100％となる。「多い」と回答した青年層が各層の中で少なかったことは，共通語教育の徹底とともに，自身の方言的要素が減少しているためと考えられる。

図19「前問の回答についてどう思うか」では，「良いことだ」が青年層で最も低く20.2％である。「残念だ」は青年層が13.4％と高年層の4.7％に次いで２番目に低い。一方，「別に何とも思わない」は，青年層が最も高く47.6％と半数に近くなった。「別に何とも思わない」が青年層で最も高い理由は，おそらく他の層に比べ共通語の普及がこの層で進んでいるため，自身の方言的要素が減少していることに特別な感情が湧かなかったためであろう。「仕方ない」（18.8％）が各層の中で青年層が最も高いのも同様の理由であろう。

以上を総合すると，青年層は昆明方言に対して好感を抱いている。しかも，共通語の運用能力も活躍層と高年層に比べ高く，場面に応じたコードスイッチングにも巧みである。ただし，共通語教育が徹底されたため，他の層と比較して自身の方言的要素が相対的に減少していると言える。さらに，この層の多くが大学在学中であるため，子や孫の方言の行く末にまでは考えが及んでいないというのが実情であろう。

９－３　近年の昆明方言の状況

本稿の基礎となる昆明方言の意識調査からすでに14年が経過した。この14年の間に昆明方言の使用者の言語意識に関する論考は管見では見当たらない。そこで，インターネットで目を引いた２つの記事の要約を通じて，近年の状況を補いたい。１つは，2015年に掲載された「方言が2000年代生まれの昆明人の生活の中で消えつつある」(6) である。2000年代生まれの世代は日々の生活で共通語を用いており，彼らの親の世代で教育レベルの高い者は，子供との会話も共通語を使用している。2000年代生まれの世代は，学校を離れても共通語を使うのに慣れ，この現象は小学生に顕著である。しかし，中高生にはこの現象はあまり見られない。また，2000年代生まれが中高生になった時には自我が芽生え，地域への帰属感が増すにつれて，昆明方言の「陣営」に戻る可能性があるか作者は自問しているが，上海の若い世代が方言を話せなくなって何年にもなるのと同様に，幼いころから共通語を話してきた昆明の小学生は，成長後も大多数が引き続き共通語を話すとしている。また，昆明は外来人口が激増しているため，多くの企業では共通語が仕事上の「共通言語」となっており，地元の昆明人も共通語を使用せざるを得ないという。

一方，2017年に掲載された「昆明の子供ならば昆明話を使うべきだ」(7) で，ある幼稚園の教師が以下のように述べている。年少組から年長組まで１クラス平均で28名の子供がおり，その両親のほとんどは生粋の昆明人だが，彼らの子供の７割は共通語しか話さない。さらに，昆明市五華区全体の公立幼稚園で同様の趣旨を調査したところ，3000人の子供の中で６割は共通語しか話さないという。一方，2017年９月から昆明市五華区の13か所の公立幼稚園で３年間の試験的教育として，昆明方言の童謡や民間の遊戯を行っているという。ただし，五華区基礎教育科学研究センターの幼児教育教研員は，この試験的教育の趣旨は子供たちに流暢な昆明方言を話せるようにするのが目的ではなく，共通語を習得させるのと同時に，方言の童謡と民間の遊戯を通じて，昆明の歴史と文化に興味を持たせ，昆明の「文脈」を代々引き継がせることが目的であるとしている。ここには，昆明方言が幼い世代では，すでに「第一言語」ではなくなりつつある現状において，自身の地域文化を可能な限り次世代に伝達したいというささやかな抵抗がうかがえる。

本稿で述べた青年層，つまり1980年代生まれの青年層は，ほぼこの２つの記事に紹介された2000年代生まれの親にあたる世代である。彼らは，2004年の調査時に**「昆明方言を後世に残した**

いか」という設問に対して，当時の「80後」世代の青年層は，実に78.6％が「残しておきたい」と回答している。しかし，自身の子供の行く末を考えると，共通語が現代の「威信言語」として圧倒的に存在感を増す中では，なす術がなかったということであろう。

10. おわりに

以上，昆明及び昆明方言について，主に2004年当時に行なった言語意識調査を基にネイティブとノン・ネイティブの意識の違い，ネイティブ内の世代層と親の出身地による意識の違いとその原因を考察した。王育珊，王育弘2012によると，ここ数年，**1．昆明及び昆明方言の概要**で紹介したような音声面での特徴が減少しつつあるという。しかし，現時点で2000年代生まれより上の世代は，共通語の影響が強くなっているとはいえ，昆明方言の調値（声調の高低昇降の値）が共通語の調値に変化したり，統語面や語彙面の特徴も減少することこそあれ，消失することはないであろう。ただし，現在の中国で規模の大きな都市では，外来人口の流入が顕著であり，昆明も例外ではない。その際，昆明になんら縁もない省外出身者（＝省外ノン･ネイティブ）が，今後，子供（＝省外ネイティブ）を持った時，その子供の世代が昆明に対して魅力を感じるか否かが重要な鍵となる。**9－1　省外ネイティブの昆明と昆明方言に対する意識**でも明らかになったように，その土地に魅力を感じていなければ，その土地の言葉にも愛情を抱くことができないからである。さらに現在,「威信言語」として圧倒的な影響力を持っている共通語が，中国全土に普及している中で，各地の方言は存亡の危機に直面している。政府の強力な国民統合の手段としてのいわゆる「推普工作」により，各地の方言，特にわずか10数年前には，特定の地域で圧倒的な勢力を誇っていた南方の上海方言なども存亡の危機に立たされている。西南官話の下位分類に位置する「辺境」の方言である昆明方言の行く末は，さらに危機的状況にあると言えるだろう。2000年代以降に生まれた昆明人の多くが，共通語を第一言語としているような現状では，昆明方言の未来は危ういと言わざるを得ない。**9－3　近年の昆明方言の状況**の後半で引用したようなささやかな試みが，その歯止めとなるかどうか，今後の状況に注目したい。

〈注〉

（1）　本稿は2009年11月21日に，日本中国語学会東海支部において発表したものを論文にまとめたものである。

（2）　袁家驊（1983）p.23

（3）　張映庚（1997）p.279

（4）　ここで言う共通語とは,「北京語音を標準音とし，北方話（官話）を基礎方言とし，典型的な現代白話文著作を文法の規範とする」「普通話」を指す。

（5）　筆者は1988年から1989年にかけて１年間昆明に滞在していた。その後も数年ごとに昆明を訪れた際に，省外の来訪者からこの種の話をたびたび耳にした。

（6）「方言正在从00后昆明人的生活中消失」（2018年７月５日閲覧）

http://www.ynhouse.com/news/view-157372.html
（７）「身为昆明娃要会昆明话　13所公立幼儿园实验方言教学」（2018年７月５日閲覧）
http://www.yn.xinhuanet.com/hot/2017-11/07/c_136733515.htm

〈参考文献〉

袁家驊等（1983）『漢語方言概要（第二版）』　文字改革出版社
王育珊・王育弘（2012）「現代昆明方言語音発展変化趨勢」　紅河学院学報10（6），76–78
言語編集部（1995）「変容する日本の方言―全国14地点，2800名の言語意識調査」『言語　別冊』　第24巻第12号，大修館書店
宮本大輔（2009）「中国人の言語評価　北京・天津・上海・杭州の大学生を対象に」　社会言語科学，11（2），55–68
左秀蘭・呂雯鈺（2016）「関於方言使用及態度的調査研究―以威海地区膠東方言為例」　北京第二外国語学院学报，（2016年01），25–45
端木三・張瀛月・董岩・周逸雯（2016）「上海市常住人口的語言選択和語言使用度研究」　Global Chinese，2（2），241–258
張映庚（1997）『昆明方言的文化内涵』，雲南教育出版社

［謝辞］　調査票のインフォーマントへの配布は，在昆明の王海盟氏，王薇氏，張有才氏，張蓉氏，李惠珍氏，李惠芬氏にお願いし，調査票の中国語訳は南山大学などの趙晴氏にお願いした。また，雲南農業大学と雲南財貿学院（現雲南財経大学）の学生諸君には，貴重な時間を割いていただき調査票の記入をお願いした。たいへん遅れましたがこの紙面を借りて感謝いたします。